

# 炎症性腸疾患先進治療センター ～IBD修練医 岡林慎二の体験記～

当センターは、2016年4月より「IBD臨床修練医」というIBDにおける若手医師育成システムが作られ、この度私はその第1期生としてトレーニングを受けることになりました。

これまで京都・福岡で一般消化器内科医として働き、そこでIBD患者と出会いその苦悩を知りました。IBD患者数は近年急増しているとはいえ、その複雑な病態から診断・検査・治療が難しく、私のような若い医師にとってはなかなか学ぶ機会がありませんでした。そんな中、偶然にもIBD修練医の募集を知り、運よく仲間に入れてもらうことができました。はじめは、これまでとは異なった生活環境や仕事内容に焦り不安を感じることも多くありました。IBDに関して、右も左もわからない私でしたが、毎日基本的なことから最新のIBD診療まで丁寧に教えてもらい、なによりIBD医師と共に過ごす時間(病棟・外来・検査・治療など)がとても長いため、その何気ない会話ひとつひとつから学ぶことが多く気軽に相談できるのは臨床修練医の一番の魅力に思います。さらに、当院には若手医師が多く活気があり、プライベートな事まで気兼ねなく話せる仲間にも恵まれて今では公私ともに充実して過ごす事ができています。

長い医師人生において、IBDが重要な病気のひとつになることは間違いありません。ここ北里研究所病院IBDセンターでは、IBDに専念できる環境を臨床修練医のために整えてくれており、第一線で活躍するIBD医師から直接指導してもらえます。私のようにIBDに興味をもつ医師、トレーニングを受けてみたい医師にとっては絶好の機会と思いますので、当センターはいつでも歓迎しています。

